

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590500171		
法人名	吉村商工 有限会社		
事業所名	グループホーム まごころ		
所在地	宮崎県小林市南西方1992番地13		
自己評価作成日	令和4年1月14日	評価結果市町村受理日	令和4年4月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	令和4年2月16日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員が企業理念を理解し、理念に基づき個人、個人の介護サービスを提供しております。入居者の方々の気持ちに寄り添い、話しやすく、思いを聞き取れる環境作りを心掛けている。安心、安全な日常生活が送れる様に関連部門の協力医との連携を図り健康状態を把握し、看取りの条件が整い週末ケアが行えます。最後まで人権を尊重し時を過ごしてもらえる様に配慮している。花見やドライブで季節を感じていただき、その思いを貼り絵や工作に展開していただき、1年中ホールや居室に思い出の工作や季節季節の飾りが展示され四季を感じながら毎日を生活しておられる。コロナ禍で面会制限がある中、少しでも入居者の方々の表情や活動、生活の日々の様子を家族の皆様へ動画や写真をタブレット等を駆使してあたたかも面会しているように報告している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者、職員は運営法人が掲げる企業理念や基本方針に沿った支援が行われるように努めている。コロナ禍で、思うように地域との交流が行われない状況でも、住宅地にある立地を生かして、敷地内から、隣の住宅の庭の花を見せてもらいながら、地域の方との会話を楽しむなどの工夫が行われている。開設後2年足らずの間に3名の看取りを行うなど、利用者、家族が安心して迎えらる終末期のあり方にとりくみ実践している。日常的な活動では、動画配信サイトを活用し、体操や脳トレ、利用者が暮らしていた地域の映像の視聴をするなどマンネリ化しない活動に取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝のミーティング時に入居者の状態をスタッフ全員で共有、把握し一人一人の介護サービスに取り組んでいる。ミーティング時には全員で企業の理念と基本方針を唱和している。	法人が運営する全事業所がめざす企業理念と基本方針を毎朝唱和することで、意識づけと実践につなげている。ホーム開設後、2年近くになり、職員からホーム独自でめざすケア目標の提案もある。	運営法人の企業理念、基本方針を大切にしながら、管理者、職員がホームの役割や現状等に応じた独自の理念を作り、実践につなげることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為地域との交流は思うようにできていないが近隣の方の声掛けで庭の花を見学したり敷地内散策時の会話を楽しまれている。	コロナ禍で行事等による地域との交流は行われていないが、日常的に敷地内散策時にホーム周辺の住民との交流が行われている。	地域密着
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々変化する入居者様の体調や行動を通して学べた認知症の理解や支援の方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ対策の為面会や外出、外泊等の制限があり会議も思うように開催できていなかったが会議を通じた意見をスタッフ間で共有しサービス向上に努めている。	コロナ予防のため中止が多いが、駐車場にテントを設置し開催したこともある。警察官から巡視の時間は何分まで記録することの大切さ、民生委員からお手伝いの提案等があり、サービス向上に活かす内容となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者や包括支援センターの職員と連携を図りスキルアップを目指した介護に取り組んでいる。	書類や制度等で解らないことなどがあるときは、その都度市の担当者に相談している。ホームの空き情報等は、包括支援センターに報告しスムーズな運営が行われるようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自分自身に置き換え、されたくない気持ちとしてはいけない事と思う事で日々の介護サービスに反映している。定期的に勉強会を行いアンケートも取り入れ安全で拘束に繋がらないケアに取り組んでいる。	身体拘束の勉強会では、日ごろの行為の中にも拘束につながる要素があることなど、具体的な内容で学習している。利用者が外に出るときは職員と一緒に、気持ちを落ち着かせるよう援助し、自由に出入りできるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングで意見交換を行い利用者一人一人の状態を理解、共有し、行動や言動に配慮する事が大切でありケアさせて頂く気持ちを再確認する事で虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を活用されている利用者がおられ、制度の活用までの関係者やご家族との話し合いの機会を持つこともできた。今後も制度の理念と関係者との話し合いを深め活用し支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、退去時には十分な説明を行い家族や本人からの疑問や不安、意向を確認しながら納得頂いた上で契約等を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話対応時に日常の様子を伝える中で意見や要望をスタッフ全員で伺える体制は整えている。面会についてはコロナ禍で制限はあったがタブレット導入により一部の利用者は家族との面会等に反映出来ている。	家族からの電話の頻度が多く、その都度意見や要望があれば聞くようにしている。体操が同じような内容である・ガラス越しの面会では、声が聞き取りにくいなどの意見が、改善に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要に応じて職員との話し合いの場を設け、代表者や管理者への報告、相談を通し運営に反映できる様に努めている。	日常的に職員の提案等は、法人代表に直接伝えたり、電話で報告し相談をして、運営に反映させるようにしている。動画配信サイトやタブレットの導入等もコロナ禍の状況に応じて、適時の対応が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会話や相談のできる環境を作りスタッフがやりがいや楽しみを感じお互いを思いあえる職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受けた職員の資料やまとめた内容を参照する機会を作り、疑問点は話し合う場を設けている。全ての入居者の状況の連絡、報告、相談し情報の共有を基本としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため地域密着型で作っている連絡協議会の参加はできなかったが他施設との交流や意見交換、活動への参加を通じ質の向上の取り組みをしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族、入院中であった場合は担当スタッフに本人や家族の希望や要望、不安に思っている事を確認し、全スタッフで理解し安心できる環境と関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時は、家族の要望や不安の有無を確認し、話しやすい雰囲気づくりを心掛け、電話対応時は言葉がけにも十分配慮しながら話して頂ける信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の要望を聞き、新しい環境に慣れていただく為に、要望に添った支援を行いその中から必要な支援を見極め、都度、本人と家族に説明しながら対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができる事は本人のやり方で続けていただき、できない事は支援し、したくない事は本人や家族に理由を確認し、生活を共にしていく上で本人にとって大切であることを知って頂くよう対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や面会時、近況報告する際に家族の状況も伺ったり病院受診時の付き添いの協力を頂いている。家族の不安や心配事が話しやすい相談しやすい関係づくりを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出制限がある中、四季折々の花見やドライブの際、それぞれの自宅近くまで足を延ばしたり、馴染みの場へも出掛け、気分転換ができる様に務めた。	コロナ禍での面会はガラス越しやタブレットを使って行っている。動画配信サイトで自宅近くの映像を見て懐かしんだり、花見の帰りに自宅近くまで行って、馴染みの人との出会いを喜ぶなど関係継続の支援に取り組んでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の様子を確認しながら、居室で長く過ごされている方には、声掛けして話を伺ったり、興味がある事や一緒にできる事を提案し、交流できる時間、機会が増える様に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入所されておられた家族の方とお会いした際、ご家族様から声を掛けて下さり、思い出話や近況報告をして下さり交流は続いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の行動や表情を観察し、会話や行動の中から本人の意向を把握し、希望に沿った生活ができているか検討している。	一人ひとりの暮らし方やこだわり等を把握し、意向に沿って過ごせるように取り組んでいる。入浴や洗濯物にこだわりのある利用者には、本人が穏やかに取り組める方法を検討し取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報を含め、生活歴や生活環境をアセスメントに反映させ把握していく事で、職員で共有しサービス向上に役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の健康観察、活動状況、食事、排泄、服薬状況を職員全員で記録、確認する事で現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の日々の状況を全スタッフで話し合い、得られた課題やケアのあり方を本人や家族とも話し合い、本人と家族の希望に沿った取り組みを介護に反映させている。	家族に自宅にいた時の様子を聞いたり、職員の日常の気づきやモニタリングの結果等を踏まえ、関係者の意見を聞きながら計画を作成している。状態に変化があるときは、関係者で話し合い見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や実践、結果は個別記録に記入し職員間で読み返し、気付いた点や申し送りについては業務日報に記入、報告し情報の共有を行い見直しに活かしている。		

宮崎県小林市 グループホーム「まごころ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の日々の状況や家族との会話を通じて他事業所との連携を図りながら柔軟な支援、サービス向上に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	それぞれの趣味や好み話題の提供、思い出話しや図書館の本やCDを活用することで得意な事の発見や楽しみが持てる様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の月1回の訪問診療を実施している。体調変化やバイタル測定を元に必要に応じて受診を行い、状況に応じ医師よりご家族に直接連絡してもらい適切な医療体制が整っている。	入居時に本人や家族等の希望を聞き、同意を得たうえで協力医をかかりつけ医としている。基本的に1か月に1回の往診があり、受診は必要に応じて職員が付き添っている。結果や情報は関係者全員で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化等見られた際、協力医から看護師へ連絡し相談することができる。看護師を通じてスムーズな受診や医師からの適切な対応の助言等を得られ、不安なく相談できる体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリーにて情報提供を行っている。コロナ禍であったため面会はできなかったが病院関係者や家族から情報収集できるようにしている。退院後も医療関係者と連絡を取り相談できる体制を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人、家族との終末期の意思確認書の整備を行い、協力医と看取りについての協議も行っている。終末期に向け医師や看護師と連携を図り指示を仰ぎながら本人や家族が安心して穏やかな終末期が向かえられる様に全スタッフで支援できる体制に取り組んでいる。	重度化や終末期に関する指針やマニュアルを作成しており、ターミナルケアについての勉強会も行っている。状況に応じて家族や関係者全員で話し合いをもち、その時々支援を確認して対応している。開設後日は浅いが3名の看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防機関の講習会の利用、訓練の実地指導を受け初期対応の実践力を身に付ける様に努めている。急変時や事故発生時の連絡網も作成し連絡体制も整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方々との夜間訓練は難しいが運営推進会議を通じて地域の民生委員、消防団の方々の協力確認は得られている。防災、避難訓練は定期的に行い、消防署からの立ち合いも得られている。	年2回ホーム独自の訓練を行っている。また、同敷地内の他事業所の訓練に職員が参加している。地域住民の参加や、消防署等の協力確認は得られているが、コロナ禍のため実際の参加は難しい。	夜間想定訓練や地震など、不測の事態に備えた事前対策(方針、体制、手順、回数、地域との協力等々)を重視して、人命安全に考慮した一層の対策を期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として人格の尊重を重視した言葉かけ、プライバシーを損ねない分かりやすい言葉で対応している。	毎日のミーティングや月に1度の会議で話し合い、利用者の誇りやプライバシーを損ねないケアに努めている。また、地元の言葉でわかりやすく話しかけるように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話を多く持ち、ゆっくりと分かりやすい言葉で話しかけ意思疎通が図れているか確認しながら本人の希望が聞ける様対応している。本人が自己決定しやすいように本人のペースに合わせた環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを把握し、生活のリズムに合わせ寄り添いながら穏やかに生活できるように支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人がその日に着る着衣を選び楽しまれている。季節の変わり目の衣服調整の時は時折り助言を行い、気持ちよく生活できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合わせたメニューがあり、盛り付けやセッティングを工夫し楽しく食事ができるように努めている。数人の入居者が職員と準備や片付けを行っている。	食材は国産品を厳選し、野菜は同系列の他事業所の農園で栽培したものを使うこともある。行事食には力を入れており、利用者は楽しみにしている。配膳や片付けなど力量にあった手伝いを行う利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の状況に応じて食事量、食事形態の工夫を行っている。食事量や水分摂取量については記録に残し体調管理、健康状態の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛け誘導を行い、見守り介助を行っている。義歯洗浄、消毒の確認介助、歯磨きの不十分な所の声掛けを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一日のリズムを大切に、定期的にトイレ誘導の声掛けを行っている。又、本人からの排泄の訴えもあり、トイレでの排泄も増えている。車椅子の方も、トイレでのひとつひとつの動作の声掛けで立ち上がりや移乗動作が得られている。	排泄パターンの把握に努め、気持ちよく排泄できるように自立に向けた支援に努めている。尿意を自覚のない利用者が自分でトイレに行く意思を持ち、介助すればトイレでの排泄ができるようになっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	トイレの声掛け、排便の確認は排泄チェック表に記入。水分不足にならないよう、又、ヨーグルトや牛乳、乳飲料等用いる工夫をし便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人に応じた入浴支援が出来るようタイミングを見て入浴の声掛けを行っている。拒否がある方は本人の希望を伺い、変更しながら入浴出来るよう支援を行っている。	入浴は週に2回から3回、利用者の希望や状況に応じて実施している。脱衣所には、ヒートショック対応のための冷暖房が完備されている。リフト浴などの特殊浴も設置されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後に軽く仮眠を取られたり、居室でテレビ視聴される等、ゆっくりと過ごされる時間が取れている。夜間は個々の希望で窓のシャッターを降ろしたり、枕元に小さな常夜灯を設置する対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬が届いた際、担当職員がチェックしセットを行う。毎回の薬は三重にチェックし配薬時に本人の名前、日付け、いつ服用か説明の上服用していただく。処方箋はファイルにし内容変更があった場合も申し送りノートに記入し全職員が確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を一緒に干し、たたみ、収納までできる方が増えてきた。車椅子で思うように動けない方の食器の片付けをしてくださったり、共有部分の掃除や戸締りを積極的にして下さっています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季折々の花見やドライブ、近隣の名所や自宅周辺までのドライブで車中での会話を楽しませている。	ホームは敷地が広く、敷地の奥には花木があり、日常的に散歩をしたり日光浴を楽しむことができる。コロナ禍のため頻繁に外出することはできないが、たまにドライブを楽しむこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で各自の出納帳の管理を行っている。本人が希望された際は内容を確認している。個人で小口現金を所持している方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望された際はいつでも電話ができる様に対応している。特に家族との連絡が取りたい時は直ぐにできる様に連絡先の一覧表を作成している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を心掛け、季節の花や、行事ごとの飾りを展示した空間づくりを行っている。共用部分のため、消毒、喚起、掃除、温度調整には十分注意を払い感染予防に努めている。	玄関やくつろぎの場である和室に季節の花を飾っている。ホールや廊下の壁には利用者が職員と一緒に作成した作品が展示され、生活感や季節感を窺い知ることができる。室温、湿度、換気など感染症予防にも十分留意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに二つのソファを設置し自由に座っていただけるようにしている。テーブル席も定期的に組み替え、誰とでもいつでも会話できる空間作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の意向を伺いながら、使いやすいようにベッドや収納の位置を設置している。ご家族の写真や花を飾るなど、安心して穏やかに過ごせる工夫をしている。	利用者にとって使い勝手の良い安心した暮らしができるように配慮している。ベッドの位置や方向を変えたり、部屋をすっきり広く使いたいなどの意向に沿った部屋づくりを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで、車椅子もスムーズに移動でき、各所に手すりが設置され、動線上にも障害物はありません。安心して移動し自立した生活が送れるように配慮している。		